

### 芦屋市制70周年記念事業 キャッチフレーズ・シンボルマークデザイン募集

■募集期間 一月四日～二月五日 必着  
 ■募集内容 キヤッチフレーズ記念事業の基本方針の内容に沿った市民に親しまれるもの(十七字以内)  
 シンボルマーク市制七十周年を表し、インパクトのあるもの(五色以内単色可)  
 ■資格 特になし  
 ■条件等 応募用紙一枚・一点とし、自作未発表のもの、点数・色彩・画材技法等は自由  
 著作権その他第三者の権利を侵害しているものは不可(詳細については応募要領を参照してください)  
 ■応募方法 所定の応募用紙に必要事項を記入の上、作品と一緒に郵送またはメールで下記へ  
 選考の上、最優秀賞(一点)・優秀賞(二点)を決定します。同一作品の応募が複数の場合は「抽選」させていただくことがあります。受賞者には、記念品を進呈します(複数の場合は抽選)

問い合わせ 行政経営課 ☎38-2005  
 info@city.ashiya.hyogo.jp (〒659-8501 住所不要)

### 平成22・23年度 競争入札

参加資格申請を受け付け  
 競争入札参加資格申請は、東水通部 芦屋病院を含むが発注する競争入札に参加するために、欠かせない手続きです。  
 登録の受け付けは、一年に一回で、年度途中の新規登録は行いません。  
 また、今回からは郵送申請に変更していただきます。  
 【測量・建設コンサルタント等、物件等】  
 ■受け付け 終了しました  
 (建設工事)  
 ■申請書配布 現在配布中(一月八日まで)  
 ■受け付け 二月八日(月) 必着  
 詳しくは、市ホームページまたはテレフォン案内(☎382061)で確認してください。

### 2010年 農林業センサスにご協力を

2月1日現在で、全国一斉に「農林業の国政調査」といわれる「2010世界農林業センサス」が実施されます。この調査は、今後の農林業の政策に役立てるため5年ごとに実施される、極めて大切な調査です。  
 1月中旬から、農林業を営んでいる皆さんのところへ調査員がお訪ねし、調査票に農林業の経営状態などの記入をお願いしますので、ご協力をお願いします。  
 問い合わせ 経済課 ☎38-2033

### 南芦屋浜地区地区計画の 変更原案を縦覧します

■縦覧件名 阪神間都市計画(芦屋国際文化住宅都市建設計画)地区計画の変更(南芦屋浜地区地区計画) 芦屋市決定 原案  
 ■縦覧期間 1月15日～29日・平日の執務時間内  
 ■縦覧場所 都市計画課  
 ■変更内容 現在、戸建て住宅地として分譲が行われている海洋町と涼風町の一部区域について、低層住宅としての住環境を維持保全するため、他の低層住宅地区と同様の地区整備計画を定めるものです。

【意見書の提出】  
 この案について、土地に関する利害関係者は、縦覧期間中に、芦屋市長宛に意見書を提出することができます。※意見書提出先 都市計画課



一 地区整備計画を定める区域

### 教育委員会管理課からのお知らせ

市立小・中学校以外へ入学する児童・生徒の届け出/外国人の市立学校入学  
 【私立または国・県立小・中学校へ入学する児童・生徒の届け出】  
 お子さんが、私立または国・県立の小・中学校へ入学する場合は、届け出が必要です。  
 入学許可証を持って、教育委員会管理課へ手続きにお越しください。  
 【外国人で市立小・中学校への入学を希望するかたの手続き】  
 お子さんが外国人のかたで、市立小・中学校への入学(新1年生を含む)を希望するかたは、お子さんの外国人登録証明書と印鑑を持って、教育委員会管理課へ手続きにお越しください。  
 問い合わせ 教育委員会管理課 ☎38-2085

### 「第4次芦屋市総合計画基本構想案」 市長へ市民会議から提言



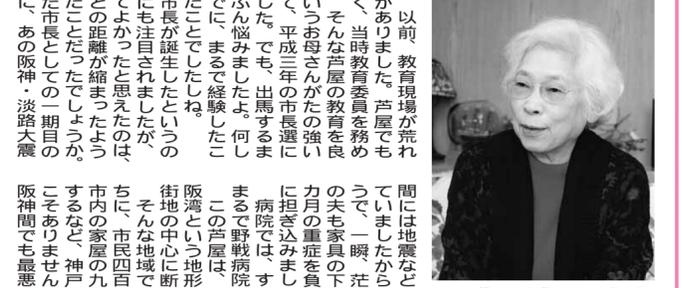
行政経営課 ☎382005  
 平成二十三年度からスタートする第4次芦屋市総合計画を策定するにあたり、公営市民四十七人、六部会が構成する案案作成市民会議を設置し、昨年五月からの六十一回にも及ぶ会議を重ね、まちの将来像や十年後に目指すまちなみについて議論した。提言は、平成二十一年十二月十九日に「基本構想案」として、市長へ提言をいたしました。市長へ市は、今後この案を尊重し、総合計画を策定していきます。

### 国民年金保険料の納付は口座振替が便利です

国民年金保険料の納め忘れがあると、将来受けられる「老齢基礎年金」の年金額が少なくなったり、もしものときの「障害基礎年金」や「遺族基礎年金」が受けられなくなったりする場合があります。  
 口座振替にされると、保険料の納め忘れがなく、納めに行く手間や時間も省けます。また、毎月納付で翌月振替にされた場合、割引はありませんが、前納(1年前分納または6カ月分前納)や毎月納付でも当月振替にすると割引があり、現金で納められるよりお得です。  
 希望されるかたは、預貯金通帳・その届け出印・年金手帳(または国民年金保険料納付案内書)を持って、金融機関・郵便局または社会保険事務所、2月中にお申し込みください。  
 1年前および6カ月分前納は、3月中に年金事務所でも処理する必要があります。  
 【参考】平成21年度の場合です。平成22年度は、変更となります。

振替・納付方法	振替日・納付日	割引
① 毎月納付	翌月末日 例、4月分保険料は5月末日	口座振替も現金も、割引はありません
② 毎月納付(早割)	当月末日 例、4月分保険料は4月末日	月50円の割引(現金の場合、割引はありません)
③ 1年前納	4月末日 (4月～翌年3月分保険料)	1年で、3,690円の割引 現金の場合3,120円の割引
④ 6カ月前納	4月末日 (4月～9月分保険料)	6カ月で1,000円の割引
	10月末日 (10月～翌年3月分保険料)	現金の場合710円の割引

### 芦屋の人



全面的に、以前、教育現場が荒れていた時期がありました。芦屋でも例外ではなく、当時教育委員を務めていた私は、そんな芦屋の教育を良くしたいというお母さんごとの強い願いがあった。平成三年の市長選に初出馬しました。でも、出馬するまでには、いざいざ悩みました。何しろそれまでに、まるで経験したこともなかったことでした。ね。  
 初の女性市長が誕生したというので、全国的にも注目されました。市長になってよかったと思えたのは、市民と行政との距離が縮まったように感じられたことだったでしょう。か、そう思えた市長としての二期目の終わりに、あの阪神・淡路大震

あの大震災から、十五年目の年を迎えて  
 北村春江  
 災が起きてしまいました。それまで、誰もがこの阪神間には地震など起きないものと考えていましたから、不意をつかれたように、一瞬、茫然自失でした。私の夫も家具の下敷きになり、全治三カ月の重症を負い、近くの芦屋病院に担ぎ込まれました。混乱のきわみで、まるで野戦病院のようでした。この芦屋は、北に六甲山、南に大阪湾という地形で、地盤も弱く、市街地の中心に断層が通っています。そんな地域でしたら、一瞬のうちに、市民四百四十人の命を奪い、市内の家屋の九割近くの家屋が壊れるなど、神戸の長田のような大災害こそありませんでした。被災者は阪神間でも最悪の状況でした。

おまけに、住宅が密集していて道が狭く、倒壊した家屋が道路をふさぎ、人が生き埋めになっている家にも救助がなかなか届きませんでした。地域の連携が強い地区もありますが、マンパワーだけでは危険も伴います。うしろもありません。少しでも早い救出が可能だしたら、何人かは犠牲にならずにすんだと思うと、悔しくてなりません。  
 その日から、災害に強いまちづくりを、目指して、復旧・復興への日々が始まりました。市長に在任した二期・三期は、私だけでは、なな職員も一丸となって、ほんとうに無我夢中で取り組んでいきました。区画整理を実施したときなど、持ち家を失った人たちが家を再建できないうちに、痛いほど伝わってきました。このときほど、災害弱者への融資制度など、公的支援を後押し

### 谷崎潤一郎記念館の催し

【文学館講座】 柳谷郁子先生を囲む読書会  
 ■日時 1月28日(木) 水戸前10時30分～正午  
 ■会場 講義室 ■内容 島崎藤村・作「夜明け前」 ■講師 作家・柳谷郁子氏 ■定員 16人  
 ■受講料 2,300円 ■申し込み 下記へ  
 問い合わせ 谷崎潤一郎記念館 ☎23-5852/☎38-3244  
 tashiya-tanizakikan@rhythm.ocn.ne.jp

### 公民館公開講座「文化史論」

■日時 1月28日(木) 午前10時～11時30分  
 ■会場 市民センター音楽室 ■テーマ 南北の概念・東西の概念  
 ■講師 園田学園女子大学名誉教授・田辺眞人氏 ■定員 先着30人 ■受講料 400円  
 ■申し込み 電話で公民館へ  
 問い合わせ 公民館 ☎35-0700

### 公民館 親学セミナー

■日時 2月10日(水) 水戸前10時～11時30分 ■会場 市民センター218室 ■内容 イチャモンを超えて～学校と親の新しい関係づくり  
 ■講師 大阪大学大学院人間科学研究科教授・小野田正利氏 ■定員 先着10人(P.T.A別) ■託児 400円  
 ■申し込み 電話で公民館へ  
 問い合わせ 公民館 ☎35-0700

### 金婚夫婦祝福式典

■日時 5月23日(日) 午後1時～ ■会場 西宮市民会館アミティホール(阪神西宮駅東・西宮市役所南)  
 ■対象 昭和36年に婚姻届を出した夫婦  
 ■申し込み 2月26日(金) <必着>までに、所定の申込書(高年福祉課・神戸新聞阪神総局・販売所で配布)に記入し、神戸新聞社地域活動局「金婚式」係(☎078-362-7086 〒650-8571 <住所不要>)に提出してください。  
 問い合わせ 高年福祉課 ☎38-2044

幼稚園って、どんなところ？  
 伝統的な遊びを通して、十二支の由来の楽しいお話で、幼稚園の三学期が始まります。年未から年始にかけて、子どもたちは、いろいろな日本語の風習や遊びに触れる機会がたくさんあります。こまわしもの一つです。  
 子どもたちは、サンタさんからプレゼントにこまをもらいました。最初は、ひもを巻くのがなかなかうまくいきません。小さな手で一生懸命に巻いて、途中で崩れては、またやり直しながら、少しずつコツを覚えていきます。「できないよ、先生、巻いて！」あきらめそうになるのを、先生や友達に励まされて、なんとか巻いて、嬉しそうに「やったー、やったー、本当にかっこいいよ！」と大喜びです。また、家庭でも一緒に楽しんでください。  
 昨日、お父さんと練習した！「僕のおじいちゃん上手なんだよ。」などの声が聞かれます。回せるようになると、「いちにのさん」との掛け声で友達と一緒に回して競争をしたり、板の上に置いたり、工夫して遊ぶ姿も見られます。  
 「こま」の、教育ボランティアのかたに来ていただくこともあります。両手で投げて回す大きなこまや、からくりこま、いろいろな地方のこまなど、珍しいこまを次々見せていただき、子どもたちはその面白さに引き込まれます。刺激をいただき、さらにはやる気いっぱいになっていきます。  
 こま遊びをはじめ、けん玉・竹馬などの伝承遊びは、「なんでも一生懸命にしたらできるよ」という大切なことを、子どもたちに体験として教えてくれます。また、粘り強さや自信も育めます。  
 これからも、豊かな活動を通して、子どもたちの成長を、支えていきたいと思います。  
 問い合わせ 学校教育課 ☎382087